

ウクライナ国オデーサ市への現地支援について

姉妹都市であるオデーサ市からの緊急人道支援の要請を受けて、今年 7 月に移動式浄水装置 33 台をお届けしました。このたび、新たな人道支援要請を受け、防寒対策物資を供与しました。

1 移動式浄水装置の活用状況

オデーサ市では、12 月に入り相継ぐロシアの攻撃によって電気や水道の供給が数日間にもわたって止まり、現在も断続的に停電や断水が発生するなどインフラに影響が出ています。そのような中で移動式浄水装置がいつでも使えるような状況にあります。

また、水道施設の機能が停止している近隣のミコライウ市に 5 台貸与され、市民への水供給に活用されています。



オデーサ市職員による試運転



オデーサ市ゲネディー・トゥルハノフ市長
(写真左)がミコライウ市へ浄水装置を貸与

2 新たな人道支援要請と対応状況

11 月 4 日に、オデーサ市長から横浜市長に、これまでの協力への感謝と戦後復興協力への期待とともに、次の 3 点の支援要請がありました。

(1) 防寒対策

屋外で建物や道路の復旧作業に携わるオデーサ市民や、ウクライナ国内からオデーサ市へ避難している方々に渡したいとして、防寒服と中敷用カイロの支援要請があり、これらの防寒対策物資を供与することとしました。

(2) 放射線対策

原子力発電所が攻撃を受けており、周辺被害の恐れがあることから、放射線対策に関する助言を求められました。JICA から紹介を受けた福島大学環境放射能研究所と連携して、放射線モニタリングなどの対策に協力しています。

(3) 医療コンテナ配備

今年 7 月にオデーサ市国際局長が来日した際に、一般社団法人 YUSA が、市内企業の移動式医療コンテナを紹介したことがきっかけとなり、支援要請が寄せられました。

JICA において無償資金協力での医療機器の支援を検討していることから、実現に向けて JICA やオデーサ市と情報交換を続けています。

3 防寒対策物資の供与

(1) 物資

- ・ 防寒服（上下） 1,900セット（購入）
- ・ 防寒服（上着） 80着（消防局の備蓄品）
- ・ 靴用の中敷きカイロ 10,000足分（購入）



(2) 経費

4,032万円（6月補正予算・一般財源）

（内訳）

- ・ 防寒服（上下）購入費 1,969万円
- ・ 中敷きカイロ購入費 99万円
- ・ 輸送費 1,418万円
- ・ その他経費（倉庫保管費、通訳翻訳費等） 546万円

(3) オデーサ市との事前確認

11月11日に横浜市国際局長が姉妹都市提携45周年を迎えたルーマニア国コンスタンツァ市を訪問し、市長を表敬した際に、オデーサ市副市長もコンスタンツァ市を訪れ、供与物資の事前確認を行いました。



左から、橋本国際局長、オデーサ市副市長、
コンスタンツァ市ヴァージル・チタック市長



オデーサ市
セルギー・テトウヒン副市長

(4) 現況

支援物資は全て12月13日までにオデーサ市に到着しました。今後、オデーサ市民の皆様にご利用いただく予定です。

